

「総合的な学習の時間」指導案

指導者 新宅 裕美子

- 1 日 時 令和2年7月1日(水) 第5校時
- 2 学 年 第3学年 4名 第4学年 3名 計7名
- 3 単元名 地域について考えよう～上殿 宝さがし～
- 4 単元設定の理由

【単元について】

本単元は、探究課題「上殿地域の米作りの歴史とそれを守り続ける人々の願い(地域資源)」を基盤に開発した単元である。上殿地域の地形は、谷々が南向きの、なだらかな斜面をつくり出しているのので、そこは日当たりがよく、人が住むのに大変都合のよい所になっている。縄文時代の初めの頃から、人が住んでいた遺跡があり、古代の人々が早くからこの上殿が住みやすいことを知り、ここを拠点に活動していたことが伺える。しかし、上殿地域は、太田川の左岸にあり、背後の山地から流れ出る水が少なく、わずかに谷沿いの部分が水田化される程度であった。しかも、その恵まれた水田部一体も近隣の地主が多く所有しており、米が経済において中心を占めていた昭和初期までは、村の人々のくらしも十分ではなかったようである。そこで、当時の上殿村村長山根蕭氏の下、寺領川から約6キロメートルの長さの上水路の新設と20町歩(約20ha)開田化が計画された。昭和6年に着工され、昭和10年には、予定通り大工事を終え、上水路を完成させている。この上水路工事には、地域の住民総出となって関わったことから、その方々の思いや願いが込められていることを伺うことができる。また、今も地域の方々はこの上水路を管理し、この水を用いて、米作りを行っている。

本単元における探究的な活動を通して、上殿地域の米作りについての歴史を感じ、そのよさやそれを守ってきた人の思いや願いに気づき、「自分たちも上殿地域の一員」という自覚をもち、自分たちができることを考え、「上殿米のよさ」を伝えていくことをねらいとしている。地域の一員として、どうしたら、「上殿米のよさ」を分かりやすく伝えることができるのかを考えながら活動に取り組むことを通して、自分たちが未来の上殿地域を創っていくという思いを持たせていきたい。

【児童の実態について】

【研究主題に迫るための手立て】

- (1) 地域素材を生かして、学習のゴールを明確にした教科横断的な単元づくりを工夫する。
 - ・上殿地域の米作りという地域素材を生かし、「上殿米のよさを広める」という学習のゴールに向けて、体験活動や調査活動、表現活動を進めていく。
 - ・各教科等との関連を「総合的な学習の時間」年間計画に位置付け、教科横断的に学習を進める。
- (2) 「ずれ」や「可能性」などを感じさせる工夫をし、願いや気づきが生まれる学習課題を設定する。
 - ・上殿地域の地形では、米作りに適していないのに、なぜ米作りができるのかという「ずれ」から課題を設定し、課題を追究する必然性を持たせていく。
- (3) 多様な整理・分析方法を示し、課題解決に取り組ませる。
 - ・「座標軸」や「ベン図」「チャート」などの思考ツールを紹介し、活用しながら、集めた情報を整理・分析し、問題解決に取り組ませていく。

(4) 協働して課題解決する方法（知識構成型ジグソー法）を仕組む。

- ・課題設定の際、知識構成型ジグソー法を用いて、全児童が課題を共有できるようにする。

4 単元目標

- ・上殿宝さがしの活動の中から上殿米に焦点を当て、それを守ってきた人と直接触れ合ったり、調査活動をしたりすることを通して、上殿地域の米作りについて理解し、上殿地域の米作りの魅力と現状について気付き、その環境について自分の見方や考え方を深めることができるようにする。
- ・上殿地域の米作りのよさやそれを守ってきた人の思いや願いに気付き、上殿地域の米作りを守り受けついでいくために自分にできることを考え、これからの生活に生かすことができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の米作りには独自の歴史があることを理解するとともに、地域の米作りを守ろうとしている人々の工夫や努力、思いについて気づいている。</p> <p>②地域の米作りの現状を捉えるために、課題に応じた方法で調査を実施している。</p> <p>③これまでの学習をまとめ、ふり返ることを通して、地域の米作りのよさを理解している。</p>	<p>①地域の昔と今の様子の比較から、地域の米作りについての学習課題を設定している。</p> <p>②課題解決に必要な方法を明確にししながら、学習計画を立てている。</p> <p>③調査して集めた情報を比較、取捨選択しながら、上殿米のよさを地域に広めていくためのよりよい方法について考えている。</p> <p>④互いの考えや理由、収集した情報などを比較、取捨選択しながら、自分たちの思いを分かりやすくまとめたり、活動したりしている。</p>	<p>①課題解決に向けて、自分が考えるよりよい方法で取り組もうとしている。</p> <p>②上殿米のよさを伝えるために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取組もうとしている。</p> <p>③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的にかかわろうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（全60時間 本時 7/60）

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
上殿の宝さがし計画を立てよう (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と田植え体験をし、田植えの方法や苦勞を知る。 ・上殿地域を探検し、上殿の宝さがしをする。 ・知識構成型ジグソー法を用いて、学級全員で取り組む課題を設定する。 ・学習課題に照らし、「上殿宝さがし」の計画を立てる。 		① ②	③ ①	行動観察 行動観察 ワークシート ノート
上殿の宝（水路と上殿米）さがしに出かけよ	<ul style="list-style-type: none"> ・上殿の水田の水は、どこから引いているのかを調査する。（実地調査） 	②		①	行動観察、ノート

う（18時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・上殿地域の水路について調査する。（文献調査、石碑・実地調査、GTへのインタビュー活動） ・上殿地域の米作りの歴史について知り、そのよさやそれを守ってきた人の思いや願いに気づく。 ・地域の方と稲刈り、脱穀体験をし、それらの方法や苦勞を知る。 	②		①	<p>行動観察、ノート</p> <p>ノート</p> <p>③ 行動観察、ノート</p>
上殿の宝（水路と上殿米）を紹介しよう（20時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・「上殿宝さがし」の活動をふり返り、「上殿の宝」をどう伝えていくのがよいか、課題を再設定する。 ・学習課題に照らし、「上殿の宝」を紹介するための計画を立てる。 ・上殿米のよさを分かりやすく伝える方法を考えながら活動し、上殿米販売を行う。 ・上殿の米作りの歴史、良さ、それを守ってきた人々の思いや願いを発表の場で分かりやすく伝える。 		③		<p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>④ ② 行動観察、発言</p> <p>④ ② 行動観察、発言</p>
上殿の宝さがしについてまとめよう（12時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習活動をふり返り、「上殿の宝」をどうまとめていくのがよいか、課題を再設定する。 ・これまでの学習活動を自分なりにまとめる。 	③	②		<p>ノート</p> <p>③ ノート、表現物</p>

学校名： 安芸太田町立上殿小学校

授業者： 新宅 裕美子

教材作成者： 新宅 裕美子

授業日時	7月1日(水) 5校時	教科・科目	総合的な学習の時間
学年・年次	第3・4学年	児童生徒数	7名
実施内容	地域について考えよう ～上殿 宝さがし～	本時／この内容を扱う全時数	7/60
教科書及び教科書会社	本校カリキュラム		

<p>授業のねらい (本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)</p> <p>グループで資料を基に話し合うことを通して、情報を比較したり関連付けたりしながら、具体的な学習課題について考えることができる。</p>
<p>メインの課題 (授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)</p> <p>「上殿で米作りを始めるには、どのような工夫があったのでしょうか。」</p>
<p>児童生徒の既有知識・学習の予想 (対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)</p> <p>児童は、上殿地域の探検を通して、上殿地域が北側は山に囲まれ、南側に太田川が流れている地形であることは理解していると思われる。また、生活体験から水は、高い所から低いところに向けて流れるということは、理解していると思われる。しかし、この2つの事実を結び付けて、上殿地域の高い所には、大きな川がないのに、水田に水が引かれているということに疑問を持つ児童は、少ないと思われる。</p>
<p>期待する解答の要素 (本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上殿地域は、近くの山から出る水が少なく、もともと水田を作ることが難しかった。 ・上殿地域に水田がたくさんあるのは、水路のおかげだ。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞

エキスパートA

「昔の上殿の様子」

資料「水路の水はこんこんと」から、昔の上殿地域は、田が少なく、畑が多かったことを読み取り、今と昔の違いをまとめる。

エキスパートB

「今の上殿の様子」

実際に探検してまとめた上殿探検マップや、今の地図から、上殿地域の様子をまとめる。

エキスパートC

「米作りに使う水について」

資料から、米作りに必要な水の量を調べ、稲作にはたくさんの水が使われるということをもとめる。

ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

- ・上殿地域の水田の水は、どこから引いているのか、水路はどのように作ったのかを調査し、上殿米のよさ、歴史を地域に発信する。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
3	1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 学習のめあてをつかむ。	
		上殿で米作りを始めるには、どのような工夫があったのでしょうか。
2	(2) 自分の考えを書く。	
10	2 エキスパート活動に取り組む。	
	エキスパートA 「昔の上殿の様子」 資料「水路の水はこんこんと」から、昔の上殿地域は、田が少なく、畑が多かったことを読み取り、昔の上殿地域の様子をまとめる。	エキスパートB 「今の上殿の様子」 地図から、今の上殿地域の様子をまとめる。
		エキスパートC 「米作りで使う水について」 資料から、米作りに必要な水の量を読み取り、稲作にはたくさんの水が使われるということをまとめる。
10	3 ジグソー活動に取り組む。 (1) 担当したエキスパート資料について自分の考えを発表し合う。 (2) グループでメインの課題について話し合う。 ④ 畑を田にするために何をしたのかな。 どんな工夫をしたのかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・報告だけにとどまらないで、それぞれの資料に対する質問や意見なども話し合わせる。 ・ジグソー活動では短冊を用意し、そこにグループの意見を書かせ、クロストークでその考えを生かすことができるようにする。
10	4 クロストークを行い、意見を交流する。 各グループの発表の後、全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで話し合ったことを発表させる。
10	5 本時のまとめをする。 (1) メインの課題をもう一度自分で書く。 (2) これから自分たちが調べていきたいことを全体で話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・再度メインの課題を解き、分かったことをもとにこれから調べていきたいことを考えさせる。

グループの人数や組み方

エキスパートは3人×1グループ、2人×2グループを構成

A (山根・紙田・田中) B (矢立・伊藤) C (森脇・渡)

ジグソーは3人、4人グループを構成 1 (矢立・紙田・渡) 2 (森脇・山根・伊藤・田中)